

■ 著者紹介

三柴 丈典（みしば・たけのり）

1971年愛知県東海市生まれ。1999年、一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了、博士（法学）。同年に近畿大学法学部講師、2002年に同助教授、2007年に同准教授、2012年に同教授となり、現在に至る。専門は、労働法及び産業保健法。2011年4月より厚生労働省労働政策審議会安全衛生分科会公益代表委員。これまでに厚生労働省の検討会の委員等を歴任し、2014年7月には衆議院厚生労働委員会で参考人を務めた。2012年に一般社団法人産業保健法学会（当時は産業保健法務研究研修センター。その後改称）を設立し、主宰者を兼任している。

単著として、『労働安全衛生法論序説』（信山社、2000年）、『裁判所は産業ストレスをどう考えたか』（労働調査会、2011年）など。その他、主に安全衛生や労災補償・賠償に関する共著書、論文等を多数公表している。